

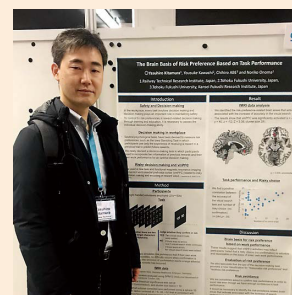
国際会議から 科学的心理学会国際大会2019 (ICPS 2019)

本国際会議は、心理学を中心に、認知科学、神経科学、遺伝学、経済学や文化人類学などの多様な関連研究領域の研究者が集まり、学際的な議論が活発に行われる学会です。心理学会で中心的な役割を果たすAPS (Association of Psychological Science) が開催している比較的若い学会ですが、2015年の第一回大会では75か国から約2,200人の研究者が参加し、以降、参加人数・発表分野ともに増加している規模の大きな大会となっています。

筆者は、危険な判断と関連する脳の活動を検討したfMRIによる実験結果について、「The Brain Basis of Risk Preference Based on Task Performance (課題成績を踏まえたリスク選好の脳内基盤)」と題してポスター発表を行いました。意思決定を専門とする心理学専門の方と、本実験で活用した課題の内容を中心に充実した議論を行うことができました。また分析に関する神経科学者との情報交換や、社会学者との組織からみた安全な判断に関する議論など、通常の心理学会以上に幅広い交流をすることができました。



開催地のパリでは、毎週土曜日にイエロージャケットデモが発生しています。そのため、土曜日にあたる学会二日目ではシャンゼリゼ通りの一部や、地下鉄や駅が封鎖され、地下鉄7駅分を歩くはめになりました。鉄道をはじめとする公共交通機関の重要性を身体で再認識した出張ともなりました。



北村康宏
人間科学研究部
安全心理研究室 主任研究員

正式名称：the 2019 International Convention of Psychological Science
開催国：フランス(パリ)
期間：2019/3/7-9
主催：Association for Psychological Science
開催頻度：2年に1回
次回開催予定：2021/3/25-27
ベルギー(ブリュッセル)
ホームページURL：<https://www.psychologicalscience.org/conventions/archive/2019-icps>